

ホール被災乗り越えて

東日本大震災による被害で、宮城、福島、岩手の東北3県では多くの文化ホールが使用できなくなり、いまも再開未定の施設が残る。地域の文化活動が打撃を受けるなか、拠点がなくとも文化活動を再開したり、地方都市におけるホールの役割を模索したりする動きが出ている。

好きだから続ける

拠点失つても

100畳近い大広間で、クラリネットやバイオリン、ニューフィルハーモニー管弦楽団の団員たち

の音が響きあう。仙台市青葉区の住宅地にある東昌寺。地元の市民楽団、仙台

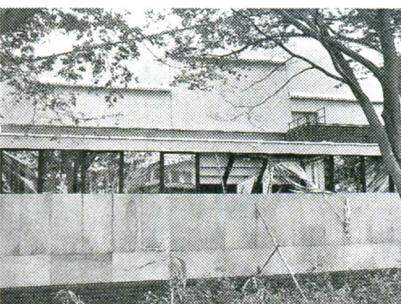
弦楽団による毎週火曜夜の練習風景だ。

20年以上使ってきた市民センターが被災で休館。楽器の保管場でもあったホールは使えなくなったが、団員の実家の寺に所を変え、12月に予定している定期演奏会に向けて練習に励む。

岩手県宮古市では、市民劇団「劇研麦の会」が、11月の市民文化祭の発表に向けて練習を続ける。主会場だった宮古市民文化会館は



寺の大広間で練習する仙台ニューフィルハーモニー管弦楽団の団員たち
=仙台市青葉区、東昌寺



津波がホールに流れ込んで使
用不能になった宮古市民文化
会館

文化再生

東日本大震災

津波で壊滅的被害を受け、復旧の見通しが立たない。一時は開催が危ぶまれたが、多くの文化団体が小さな会場に振り替えた。

「妻の会」は1948年、脚本家の故田中茂が小さ

な会場に振り替えた。

年、脚本家の故田中茂が小さ

な会場に振り替えた。

年、脚本家の故田中茂が小さ